



いちげ 一夏会報



鶴見大学副学長
前田 伸子

一夏(いちげ、ひとなつ)の体験

皆さん、2か月にわたる
司書・司書補講習の受講を
無事に修了されたことを心
からお喜び申し上げます。

今年は今までも増して
暑い夏で、この原稿を書い
ている今も、9月半ばを過
ぎているにも関わらず、日
中はまだ30℃を越す暑さで
す。暑さ真つ盛りの時期を
ほぼ毎日のように捲まず撓
まず講習に明け暮れる生活
をされたことに、本当に敬
服しております。

さて、この度この一夏会
報に掲載する原稿依頼をい
ただいたとき、改めて、「一
夏」の名前の由来を確認す
るために、以前、学長がお
書きになった文章を再読す
るだけでなく、独自に調べ
てみました。独自に調べた
などと大層なことのように
書きましたが、今はイン
ターネットで簡単に情報を
得ることができるので大し

た時間はかかりませんで
したが。

「一夏」は「夏安居(なつ
あんご)」に由来すること
を学長がお書きになってお
られたので、「安居」を調
べてみました。「安居」は
もともと梵語で「雨期」を
意味していた言葉であるこ
とが分かりました。雨期に
は草木が茂り、昆虫やヘビ
などの危険な小動物が活発
に活動する時期なので外で
の修行(外での修行を「遊
行」というそうです)を止
めて、小動物の無益な殺生
を防ぐため、一カ所に定住
して修行したそうです。こ
れを雨期のある夏に行うこ
とから「夏安居」あるいは

「雨安居(うあんご)」とも
呼ばれるようになったと
か。お釈迦さまの在世中か
ら始められたとされ、その
後、仏教の伝来とともに日
本にも伝えられ、夏だけで

なく冬も行うようになりま
したが、安居の回数が仏教
界での経験を指すように
なったため、非常に重要視
されるようになり、現在で
も禅宗の修行僧は安居を行
い、安居の間は寺域から一
歩も出ずに修行に明け暮れ
るそうです。まさしく、こ
の一夏、皆さんは曹洞宗の
大本山總持寺のお膝元で、
司書・司書補講習という名
前の「夏安居」以外の何も
でもない経験をされたの
ではないでしょうか。

さきほど「安居」という
言葉をネットで検索したと
書きましたが、調べものを
するときほどインターネット
の便利さを痛感するとき
はあります。講義や講演
の準備をするとき、手元に
ある資料の山から欲しい情
報を探しだすことは、並大
抵なことではありません。
とくに私のように整理の苦

手な人間は欲しい資料は欲
しいときに見つからず、必
要でなくなったときに出て
くるという経験をイヤとい
うほどしています。しかし、
今では欲しい情報はネット
で簡単に検索することがで
きるのです、忙しいときには
実に便利です。しかし、あ
る情報の出所を探している
とき、山積みになった資料
から別の興味を引く情報が
出てきて、探し物の手を止
めて、しばし、見つけた文
章に引き込まれてしまった
ことがしばしばあったよう
に、便利なツールを使うよ
うになってもネットで検索
した事柄から、またそれに
関連する事柄を検索し、気
がつくと全く違う世界に入
り込んでいることがあります。

さて、今回の講習ではデ
ジタル化時代の図書館業務
に必要な、コンピューター

とネットワークに関する基
礎的情報技術を学ばれたこ
とと思います。受講生の
皆さんのなかには、コン
ピューターに不慣れで、パ
ソコンの初心者講習にも合
わせて参加された方もおら
れると聞いております。年
齢もキャリアも異なる大勢
の方たちが受講する講習
で、慣れないこと、新しい
ことに挑戦された皆さんの
達成感はいかばかりかと、
少々羨ましい気すらいたし
ます。

同じ場で「安居」するこ
とになったお仲間だけでな
く、先生方とのご縁を大切
にさせていただいて、この一
夏(ここでは「ひとなつ」
と呼びたいと思います)の
経験をこれからの人生に生
かしていただくことを心か
らお祈り申し上げます。

「一夏」の充実した講習は 未来への財産



鶴見大学司書・
司書補講習主任教授
原田 智子

今年の夏もたいへん厳しい暑さの中、司書あるいは司書補の資格取得を目指して頑張られた皆様に、まずは拍手をお贈りしたいと思います。今まで一つの目標のためにこれほど集中して短期間に密度高く勉強された経験をお持ちの方は、それ程多くないのではないのでしょうか。充実した夏を頑張った自分を褒めてあげていただきたいと思います。

二四単位以上と四単位増えました。そのため、お盆休みも昨年よりも短縮して四日間しか取ることができませんでした。本来ですと、短期大学あるいは四年制大学で二年間あるいは四年間かけて学ぶ内容を、二箇月で学習するのですから、連日午前九時から午後四時過ぎあるいは午後六時近くまでびっしりとしたスケジュールの中、体調管理も大変であったことと思います。

この講習では司書あるいは司書補の資格取得が目標ですが、この会報の名称である「一夏」にこの鶴見大学の司書・司書補講習の受講生となったことがきっかけで、新たなヒューマンネ

ットワークを築かれたことと思います。私は例年七月に講義科目を、九月に演習科目を担当しておりますが、七月の時点よりも九月にお会いした時にはいつもお友達との連携が深まっていくのを感じます。目標が同じ者同士、強い絆がそこにあるように思います。さらに、講習を担当しました講師の先生方との新たな交流も生まれたことと思います。図書館学のそれぞれの分野でご活躍されている先生方との出会いも、この講習をきっかけに深めていただければと思います。新たな人との出会いこそ、講習を受けたことによるもう一つの大きな財産であると

思います。図書館の語源は「図書の置き場所」という意味ですが、いろいろな授業で感じられたように、デジタル時代の図書館では非常にさまざまなサービスが行われています。図書館は紙メディアも電子メディアも扱う時代になり、情報を蓄積・保存し提供するばかりでなく、情報発信を積極的に行い、諸般の事情で来館できない利用者にも情報を提供する時代になりました。このように多様化する情報ニーズに適切に応えられる専門職としての図書館員の役割は、今後ますます期待されることでしょう。今までもあまりパソコンを使ったことが無かった方も、図書館業務にパソコンが不可欠であることを十分ご理解いただけたいと思います。パソコン初心者講習で学習した内容はその入り口ですので、是非これをきっかけにさまざまなソフトを使いこなせるようになっていただければと思います。

現在図書館で仕事をされている方、講習で勉強した知識や技術を現場で活かしていただけたら嬉しく思います。現場での経験と、講習で学習した知識や技術が融合して、情報専門職としての司書あるいは司書補の仕事に一層の磨きがかかり、図書館利用者へのサービスが今まで以上に充実したものにできれば、講師一同こんなに嬉しいことはありません。また講習を受けたことがきっかけで、これから新たに図書館での仕事に従事される方もいらつしやると思います。何事も同じであると思いますが、学習した知識や技術に経験等が加わって初めて図書館員としての良いサービスが行えると思います。

話は変わりますが、この夏私はIFLA（世界図書館連盟）が毎年開催する国際会議に三年振りに参加する機会を得て、フィンランドの首都ヘルシンキに行ってきました。世界中の図書館員や図書館情報学の教員など約三千名が会議に参加しました。滞在中は会議への参加の合間に、フィンランド国立図書館、公共図書館、大学図書館などを見学することができましたが、

フィンランドの公共図書館は人々にたいへん身近な存在であるように感じました。どの図書館も印象的でしたが、ヘルシンキ中央駅の横にある中央郵便局の二階にもLibrary10という図書館があり、人々が賑わっていました。日本で郵便局と図書館が同じ建物にある所を知りません。フィンランドの公共図書館や大学図書館で印象的だったのは、自動貸出・自動返却が日本よりも進んでいることでした。日本でも自動貸出装置を設置している公共図書館や大学図書館を見たことはありませんが、自動返却装置を設置している図書館は少ないように思います。図書館員の役割は、ますますレファレンスサービスなどの情報提供へとシフトしているように思います。人間でなければできないサービスとは何かということを今一度強く感じているところで

最後に、受講生の皆様が、図書館や図書等に関わる仕事で、さらにご活躍されま

受講生の皆さんへ



川村学園女子大学教授
藤田 節子

今年は例年以上に暑い夏でした。皆さんは、この暑い夏をさらに熱い思いで司書講習を乗り切り、無事に司書資格取得という目標を達成し、ほっとなさっていることでしょう。ご家族のご協力や受講生間の励まし合いが、どんなにありがたかったことでしょうか。

皆さんが司書資格をめざした動機は様々だと思います。現在図書館で働いていて資格を得たいと思っている方、図書館員の職をこれから得たいと思われている方、好きな図書館に関してもっと知識を得たいと思われている方など、その目的や動機が何であれ、私は皆さんが「図書館情報学」という学問領域を学んでくれたことを大変意義のあることだと思っています。

図書館法で定められた司書資格科目の多くは、図書館情報学という領域に属しています。

図書館情報学とは、簡単に言えば、情報を求める人に、必要な情報内容をいかに適切に迅速に提供するかを実践・研究する学問領域です。

皆さんは、司書資格を得るために、たまたまこの領域に足を踏み入れたわけですが、実は、図書館情報学は、図書館で働く司書や研究者だけのものではありません。

もし大学時代に、「図書館情報資源概論」で学んだような様々な情報の種類や特徴を知っていて、「情報サービス演習Ⅱ」で実践したような情報探索のスキルを身につけていたら、もっと幅広い文献収集ができて、もっと良い卒論やレポートが書けたと思いませんか。

また、ネット検索で、結構自分ではうまく情報を探し出せていると自負していた方もいたのではないかと思います。「情報サービス演習Ⅰ」で学んだように、実際には検索エンジンでは探せない情報や、ネットには載せない情報があり、データベース検索でも網羅的に探すには、テクニクが必要であることが理解できたとと思います。

司書講習を受けて、日常生活の中で、情報を探すことに対して、これまでと違い意識が変わってきたのではないかと思います。

鶴見大学で今回私が担当した「情報資源組織演習」は、情報を共有し利用するために、いかにして情報内容を組織化するかという、図書館情報学の中でも大変に重要で専門性の高い科目でした。そこでも、図書館だけでなく、社会生活のいろいろな場面で、情報を迅速に探すために、ユーザーにわかりやすい情報の整理が求められていることをお話ししました。

つまり、図書館情報学は、図書館という施設内において必要とされるだけでなく、現在は、社会生活のあらゆる場面や場所での情報流通に必要な不可欠な学問となっています。皆さんが取得した司書の「情報内容にかかわる専門的知識・技術・技能」は、どんな職場や業務、ひいては個人的な情報生活にも役立つ基本的な能力になってきています。これを情報リテラシーとも言っています。

現在、残念ながら司書資格を持っていても、実際に司書として正規に働ける人は少なくなっています。ですから、司書資格を取っても、生かされないと思われられるかもしれません。しかし、たとえ司書という職業につかなくても、別の分野や業種においても、この図書館情報学の知識や技術・技能は、必ず役に立ち、皆さんのキャリアを伸ばすことに役立ちます。現在どんな職種でも、情報を利用し

けでなく、現在は、社会生活のあらゆる場面や場所での情報流通に必要な不可欠な学問となっています。皆さんが取得した司書の「情報内容にかかわる専門的知識・技術・技能」は、どんな職場や業務、ひいては個人的な情報生活にも役立つ基本的な能力になってきています。これを情報リテラシーとも言っています。

皆さんが司書講習で学んだことは、皆さん自身のためにも大変に役立つ、自分自身の未来を開くきっかけになるのです。どうぞ鶴見大学で司書資格を得たことを、大きな自信にして進んでいただきたいと思っています。

皆さんが司書講習で学んだことは、皆さん自身のためにも大変に役立つ、自分自身の未来を開くきっかけになるのです。どうぞ鶴見大学で司書資格を得たことを、大きな自信にして進んでいただきたいと思っています。



「学ぶ力」を糧に



鶴見大学
実習技術員
山川 恭子

この会報が講習生の皆様のお手元に届くころには、夏の暑さも和らぎ、過ごしやすい毎日が続いていることと思います。講習生の皆様、暑い中、本当にお疲れ様でした。

私が司書講習で情報検索の授業を担当して数年が経ちますが、その間、たくさんの方々の講習生の方々と出会い、授業を通し、皆様の真摯な学ぶ姿に、多くの刺激を受けてきました。皆様もこの夏の講習を通して、図書館の新たな魅力を見出したのではないのでしょうか。

私が担当した情報検索の科目（情報サービス演習Ⅰ「情報検索サービス」は、司書・司書補とともに、コンピュータを使用した検索演習です。コンピュータに不慣れな方にとつては、大変な数日間であったことと思います。しかし、現代の図書館司書にとつて、コンピュータを使いこなす、Webを活用して情報を探することは、必須の知識となつてきています。

検索エンジンを使用した簡単な情報検索は、インターネットの普及に伴い、図書館司書の勉強をしていなくても、比較的簡単にを行うことができるようになってきています。しかし、図書館司書としての情報検索とは、調べたいことを分析し、問題解決のために必要な検索ツールを選択し、適切な検索式を作成し、検索結果を評価することです。情報そのものを提供

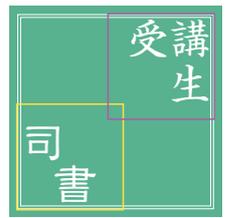
する、あるいは求められた情報のナビゲーションの役割を果たす情報源は、検索エンジンで一元的に検索しても得られない場合も多いのだということを、情報検索の授業から皆様にも理解してもらえたのではないかと、思っています。いかに効率的に、的確に、ほしい情報を手に入れることができるか、あるいは、司書として利用者のニーズに 대응できるかができるか、この問題に対して、私の担当した授業が、少しでも「役に立った」と思っていたら、嬉しく思います。

情報検索の授業を担当するようになり数年がたちますが、ほぼ毎年のように講習生の皆様に言われるのが、「答えを教えてくださいませんか？」という言葉です。情報検索によって導き出される回答とは、質問内容の分析から検索ツールを決定し、検索式を作成し、検索を実行する、という過程によって生み出されるものです。したがって、正しい「答え」というものを提示するのは、とても難しいことだと私は思っています。質問内容の分析の段階から、問題解決に取り組む人の思考が根底にあるため、それほど大きな違いはないにせよ、少しずつでも導かれる検索結果は異なることになるでしょう。得られた検索結果が妥当なのかそうでないのか、それを検証して判断するのも、情報検索過程のうちの一つです。「違うな」とか「もっとほかの回答があるかもしれない」と少しでも思うのなら、もう一度問題分析に立ち返って検索をやり直すのが、情報検索のスキルを磨く第一歩なのです。また、そうしたことは、「情報サービス演習Ⅰ」の私の授業を受講された方々には、グループ討論を通して実感していただけたのではないかと思います。

司書・司書補講習の講師を続けてきて常に感じるのは、講習生の皆様の「学ぶ」ことに対する真摯な姿勢です。短期間で全カリキュラムをこなしていく集中講座のため、一週間のうち五、六日、一日六時間以上のハードスケジュールで授業が進んでいきましたが、講習の後半になって担当した私の授業でも、皆様の「学びたい」という意欲が衰えることはなかったように感じます。講習を通して得た知識だけでなく、この夏の間にはたすら勉強に没頭し、やり遂げたという自信も、大きな財産になったのではないのでしょうか。

近年は図書館資料もデジタルコンテンツが増え、これらのコンテンツを有するデータベースも日々増え続けています。これからの図書館司書には、こうした新しいコンテンツをいち早く理解し、使いこなすための努力がさらに求められていくことでしょう。今後、皆様が講習を通して見せてくれた「学ぶ姿勢」を忘れ





ひと夏限定学生
大平 千晶

どこでもドアを開けたら、ここ（鶴見大学）だった。念じればその行き先がドアの向こうに広がる。どこでもドアはそんなひみつ道具。

単調で平凡な毎日。

それがどれだけ幸せなのかは分かっているつもりだ。

「盛者必衰の理」頭で知って心で知らず。

頭では理解できる。肌で感じる事も多少ある。

だが決定打がなく、私の日々はどこか物足りなかった。

とにかく瑞々しい刺激が欲しかった。

少々不純な動機だが、結果的に仕事に活かせるならと受講を決意。

それにこれは今までの知識や経験をはかるいい契機かもしれない。

「配られたカードで勝負するしかないのさ」とスヌーピーは言う。

それがあるだけでも十分だ。現場にいる事で一枚また一枚と増えていく手持ちのカード、舞い降りた力試しのチャンス。運命からこの二つを贈られた

私はやはり恵まれているのだらう。

昔と比べて学問の門戸は随分広がったのだとよく聞く。

有り難い事だ。

もし「学びたい」という気持ちがあるならにそれに素直になるう。

心をオープンにするのだ。心の扉と門戸、それぞれを開ければ風が通る。

行き交う風は爽やかで心地よいく。

私は学問に明るくなければ、打てば響くタイプでもない。

あだ名がポエマーという一落第生。

開き直って涼しい顔をしていたが内心「大丈夫かな？」と不安も感じていた。

結果が欲しいなら結果が出るまでやるしかない。

自分の限界を低く設定しないようにしよう。

何事もやってみなければわからないのだから。

自分の可能性を自分で潰すのは勿体ない。

糧を喰らいながら、前へ進む。

これは一つの通過点でありゴールではない。

今、どこでもドアを開けた先に立っているわけだが、更に一歩踏み出す。

チャレンジ精神を忘れずにいたい。

この2ヶ月間、支えてきてくれた人達に感謝。

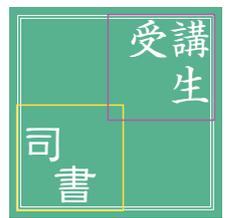
先生方はじめ仲間や学校職員さん、清掃の方に警備員さん。

彼らになつこり笑って「お世話になりました」と言えたか？

家族、友人、同僚達。

会わせる顔はあるか？「ただいま」と胸張って言えたか？

「イエス」と言う事ができれば、合格だ。



『勉強、勉強の夏』
島田 貴彦

印刷会社での約10年の勤務を経て、自分の興味のある世界で働きたいと思い、今回、司書講習を受講させていただきました。

でも、図書館学？どんなことを学ぶの？そう思ったのもまた事実。図書館って実際はどういう世界？前から興味があったとはいえない、実際には深く考えず利用してきましたから、よく判らないものです。

願書提出前、さっそく図書館について書かれた本を読んでもその深い世界にうむ、と唸つてしまいました。

何しろ「レファレンス」ってなに？状態。でも、これは面白そう。実際に時間を割けると、コムズカシイ授業名がびつしり。これには圧倒された。生涯学習、ふむふむ。児童サービス、なるほど。情報資源…？情報組織…？

授業毎にこのコムズカシイ名前の授業は一体何をやるんだらう。ちよつとワクワクしながら授業に臨んだものです。そして、染みる。

染みる。漠然とした目の前の光景がどんどんはつきり開けていき、のめり込みました。

専門的な図書館学は私にとつてはどれもとても新鮮で、学ぶことは本当に多かったです。普段、一利用者として図書館を利用してき

ましたが、講習後の帰宅途中、地元図書館へ足を運んでは「なるほど、なるほど」と目の前に広がる光景がまた違ったものに見え、その日学んだことを実感する毎日。規則正しく早い時間に家に帰り、こりやゆつくりできると思いきや、数日に課されるテストやレ

ポート準備でどたばた。特に原田先生のテストは自筆の用紙1枚のみ持込可。「用紙に要旨」をまとめる、これはキツかったですが、身に染みて勉強になりました！そして、おかげさまで体調を崩すこともなく最終日を迎えられたときはやっぱり気持ちよかったです。まわりの受講生の方たちと

過ごした時間も楽しかったですし、先生方、職員の方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

この夏の経験を存分に生かし、これからは社会に出て立派な図書館員となるべく頑張つて参りたいと思います。どうもありがとうございました。

この夏の経験を存分に生かし、これからは社会に出て立派な図書館員となるべく頑張つて参りたいと思います。どうもありがとうございました。

講生 受

補 司書



夢への一夏

宮澤 康

夏の到来と共に始まったこの講習も、ふと振り返ってみれば終点は通り過ぎていました。

講習を終えた今、立ち止まって思い返すと二年前の記憶が思い出されま

す。長年続けた職場を辞めようと決めたとき、たまたま目に入った図書館の求人募集が私の新しい夢の始まりでした。

きっかけは本当に偶然でしたが、その後何かに突き動かされるように図書館の求人を探しては応募し、何度も不採用をもらいながらも諦めることができませんでした。

そんな中、今年の春に幸運なことに採用され、晴れて図書館員としての道を歩み始めることができました。またタイミング良く講習の応募が始まったのを受け、この司書補資格を取る決意を固めました。

私 は 大 学 を 出 て い な い

こともあり、勉強も得意な訳ではなかったが、正直なところ講習についていけるか当初は不安でした。

また、この講習を終えたことで私の夢である司書へ確実な一歩を踏み出せました。次は早くて二年後だと思えますが、もう一度この場へと、今度は司書資格取得という夢を叶える為に戻ってこようと考えています。

最後になりましたが、熱心に丁寧な講義をしてくださった講師の方々、またサポートとして支えてくださった事務の方々、ありがとうございます。また、個人的なことではあります

た っ た 一 夏 で は あ り ま

講生 受

補 司書



契機の夏

小野寺 美紗子

私は、地方にある公共図書館に勤めています。しかし、今まで図書館についてきちんと学んだことは無く、業務に対する知識や技術について、いつも不安がありました。

この夏、私が司書講習の受講を決めたのは、そんな不安を少しでも解消するためです。

講習期間は2ヶ月弱という短い間でしたが、慣れない道を通い、試験や課題に取り組むのは思ったよりも大変で、途中で投げ出しそうになったこともありました。

サポートしてくださった

事務局のみなさん、そして励ましてくださった司書講習の受講生のみなさんのおかげです。

深く感謝しています。講習を終えた今、私が感じていた不安はどうな

この講習の中で学んだことで、強く印象に残っているのは、図書館や司書、司書補というものが、いかに文化の保全や創出にとって重要な存在であるかということ。文化とは、人と人とのつながりだと思えます。

身 につ け る こ と が で き

書館と文化の関わり、つまり、図書館が人と人をつなぐための重要なツールであるということ

針を与えてくれたこの講習に感謝して、これから図書館に関わりたいと思います。

図書館やそれをとりまく社会は、めまぐるしく変化しています。

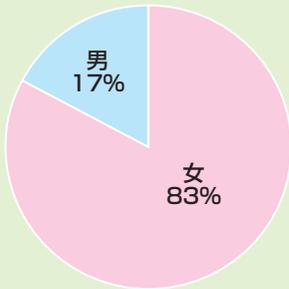
み な さ ん 、 本 当 に あ

アンケート

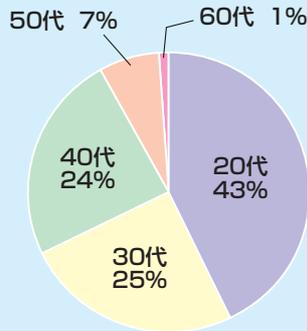
◆平成24年度司書講習アンケート集計結果◆

(回答数/受講数=136名/142名)

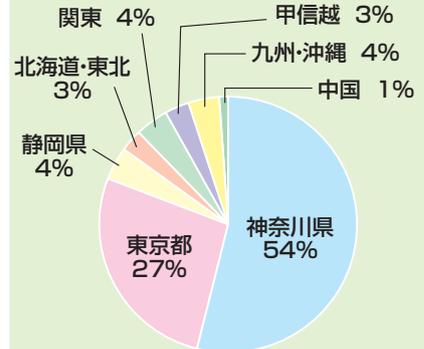
男女別データ



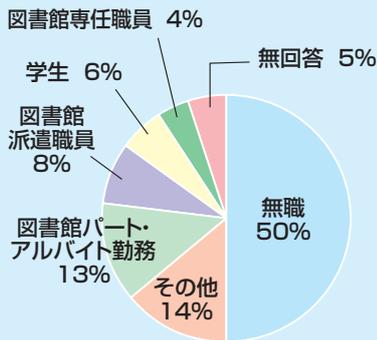
年齢別データ



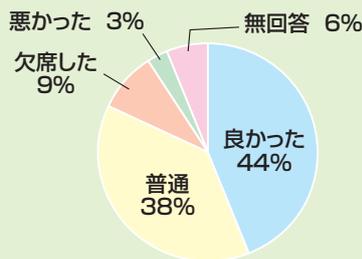
出身県別データ



職業別データ



特別講演会について



●主な理由

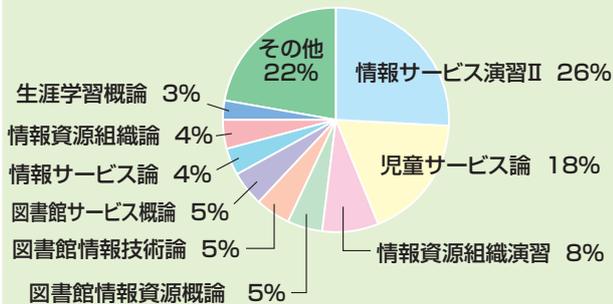
- 良かった…
 - 世界的に活躍する現役の方の話を聴けて貴重な機会だった。
- 普通…
 - 事前に講習で学んだので、理解しやすかった。
 - もう少し具体的な内容、技術的な内容に言及して頂きたかった。

感想

●主な意見

- 図書館は蔵書が多く清潔で使いやすかった。ただ、演習の時にはPCの台数が増えればよかった。
- 朝から晩までの講義は大変だったが、毎回新しい事柄を吸収できたので、充実した日々だった。
- 年齢・性別・経験に関係なく人と付き合える場がよかった。
- すばらしい講師の方々ばかりでとても感謝しています。ありがとうございました。
- 司書は常にスキルアップしなくてはならないと今回学んだので、今後も勉強する機会があるなら参加したい。
- 実務経験が無い、もしくは大学に通った事のない者もいることを考えた授業をして欲しいと思うことがあった。

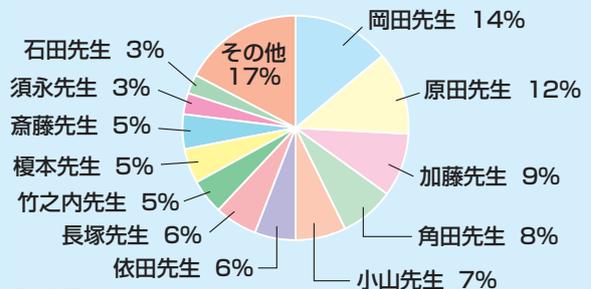
印象に残った科目(複数回答)



●主な理由

- 情報サービス演習II…
 - 内容のレベルが高く、分量も多く大変でしたが、とても勉強になりました。
- 児童サービス論…
 - 絵本や児童文学は特に「知る」ことが大事なので、多くの絵本に触れる機会があった。
- 図書館情報資源概論…
 - 幅広い内容の講義で、現場ですぐに役立つ知識を教えてくださいました。
- 図書館情報技術論…
 - グループワークと発表はとても刺激があって楽しかったです。

印象に残った講師(複数回答)



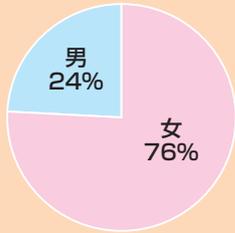
●主な理由

- 岡田先生…
 - 授業のテンポがよく、雑談などもあり、とてもユニークで面白かった。
- 原田先生…
 - 仕事に対するプロ意識が高く、とても刺激になりました。
- 加藤先生…
 - 授業の内容をとても楽しく構成してくれて良かったです。
- 角田先生…
 - とても一生懸命に教えて下さり、胸が熱くなりました。
- 小山先生…
 - 様々な参考資料を用意するなど、工夫された授業はとても分かり易かった。

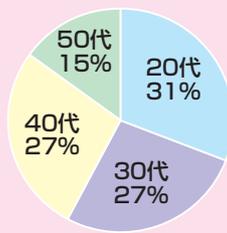
アンケート

◆平成24年度司書補講習アンケート集計結果◆ (回答数/受講数=23名/33名)

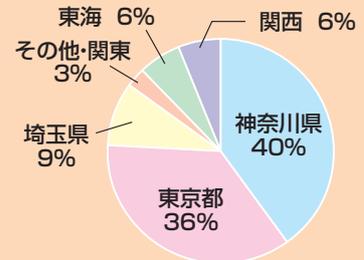
男女別データ



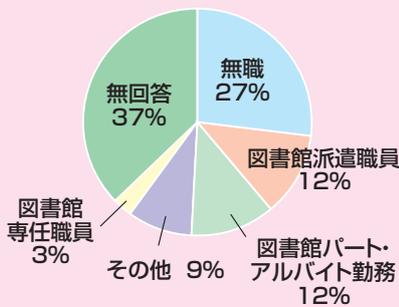
年齢別データ



出身県別データ



職業別データ



特別講演会について

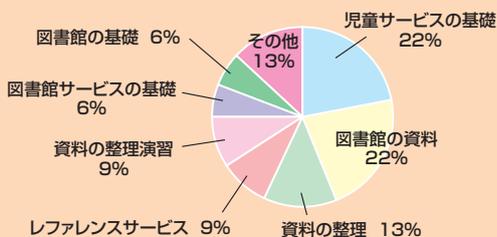


- 主な理由
- 普通…海外での情報が得られる講座で、とても興味深かったです。
 - 良かった…デジタルライブラリーは未見の分野だったので興味深かった。

感想

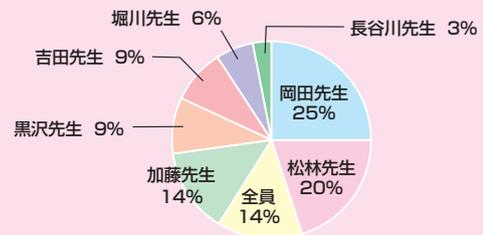
- 主な意見
- PC 初心者講習は基本操作から教えていただけたので、とても良かった。
 - 駅近で立派な施設で、学習意欲の増進につながった。
 - 大学図書館に入ったことがなかったので楽しかった。閲覧席が多く、明るくてよい図書館だと思いました。
 - これから図書館業務に関わりたいものとしては、少しでも知識を吸収したいのでリカレント教育を受講してみたい。
 - 司書補資格取得のため勉強を進めるうち、図書館の重要性を再認識することが出来ました。是非、司書資格も取りたいです。
 - とてもためになる充実した2ヶ月間でした。ありがとうございました。

印象に残った科目(複数回答)



- 主な理由
- 児童サービスの基礎…特に読み聞かせのむずかしさ、奥深さに興味をもって取りくめた。
 - 図書館の資料…初めて古典籍の資料のことを勉強できたので、印象に残っています。
 - 資料の整理…目録を書いたことがなかったので新鮮で楽しかったです。
 - レファレンスサービス…職場ですぐに役立てたいと思います。

印象に残った講師(複数回答)



- 主な理由
- 岡田先生…授業が分かり易く、難しい分類記号のことがすんなり理解できました。
 - 松林先生…複雑な内容も理解しやすく、質問にも丁寧に答えていただきました。
 - 全員…一流の先生方が熱心に教えてくださり、たくさんの知識を得ることができた。
 - 加藤先生…お話が面白く、時間が過ぎるのがとても早かったです。
 - 黒沢先生…先生の講義はとても楽しい時間でした。

■司書・司書補講習の歩み■

鶴見大学の司書・司書補講習は、昭和29年(1954)の開講以来、今年で59年目を迎えました。この間、優秀な修了者を多数輩出し、多くの先生方によるご指導を受け、本学の講習は成長してまいりました。そして昭和38年には「一夏会」が発足し、この会報の由来ともなっております。また、平成9年には大学会館での講習がスタートし、JR鶴見駅から徒歩1分という恵まれた環境で講習を行うことができるようになりました。

施設面では、約60台のパソコンからなるOA研修室、80万冊にも及ぶ質の高い蔵書群を所蔵しコンピュータを駆使した高度な情報提供機能を持っている図書館の使用など、時代のニーズにふさわしい講習を行っております。

本学司書・司書補講習は、これらの歴史と数多くの優秀な修了者を誇りにこれからも発展を続けていきます。

【司書・司書補講習受講生の皆様へ】

アンケートにご協力頂きましてありがとうございました。このアンケート結果を参考に今後もより良い講習にしていきたいと思えます。また、この一夏会報を刊行するにあたり、原稿をご執筆いただきました先生方・受講生の方々に深く感謝申し上げます。

真夏の暑い中、2ヶ月間お疲れ様でした。